



—第8号—

地域・だいがく連携通信 —神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町1-1
TEL : 078-803-5029
FAX : 078-803-5049
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

兵庫県篠山市と連携協定を締結

2010年8月30日、神戸大学は兵庫県篠山市と「連携協力に関する協定」を締結しました。篠山市は、農学研究科の前身である兵庫県立農科大学が1949年から1967年まで所在した縁深い地域です。2003年4月に農学研究科と連携協力協定を締結して以来、篠山フィールドステーションを設置し、ナレッジマネジメント体制構築や黒大豆栽培などの共同研究を実施したり、人材育成を狙いとした農村農業フィールド演習でお世話になるなど、協力関係を築いてきました。

このたび、保健学研究科と篠山市保健部健康課が就学前発達障害児早期支援プロジェクト実施に関して協力体制を築くことで合意したことを受け、神戸大学として大学協定を結ぶことにより、篠山市とより緊密な連携関係を構築することになりました。部局協定から大学協定へ発展した初めてのケースとなります。

調印式には、篠山市の酒井隆明市長をはじめ篠山市関係者が、神戸大学から福田秀樹学長、中村千春副学長・地域連携担当理事らが出席し、福田学長と酒井市長が、相互に協定書を取り交わしました。



協定書への署名を終え、握手を交わす福田学長(右)と酒井市長
(2010年8月30日、神戸大学大会議室にて)

地域連携活動発表会を開催

2010年12月17日、神戸大学瀧川記念学術交流会館大会議室で地域連携活動発表会が開催されました。この発表会は神戸大学の地域連携活動を学内外に発表し、ご意見をいただくことを目的に、2005年から毎年1回開催しています。

第I部では、まず始めに、神戸新聞社論説副委員長の三上喜美男氏より大学と地域の出会いについて興味深い話をいただきました。

続いて事例発表では、今年度地域連携事業に採択された事業のうち、「南あわじ市『諭鶴羽古道プロジェクト』への支援」、「兵庫県喘息死ゼロ作戦」、「神戸大学都市安全研究センター発“みんなで考えよう安全・安心で快適なまちづくり”」の三つの事業について報告が行われました。

また、学生地域アクションプラン採択事業や、地域連携センターのポスターセッションが会場の一角で行われました。休憩時間には担当者の説明に耳を傾ける来場者が数多く見かけられました。

第II部の意見交換会では、「大学に求められている地域連携の状況について」と題して、講演を頂いた三上氏をはじめ、本学広報室の杉山知之マネージャー、連携創造本部の堀洋特命教授がパネリストとして参加し、様々な意見が交わされました。また、場内からも貴重なご意見をいただきました。



学生地域アクションプランより

お父さんの育児講習会～子どもの食事づくりと病気の時の対応～

学生の地域貢献活動を支援する目的で始まった「学生地域アクションプラン」。今年度採択された「お父さんの育児講習会～子どもの食事づくりと病気の時の対応～」について、保健学研究科後期課程2年の上山直美さんに、お話を聞いてみました。

—父親の育児を応援しようと考えたきっかけは

私はもともと助産師で、母子研究を行っていたのですが、育児不安というものは父親の育児参加で軽減される面があるんですね。ところがこれまでの研究で、父親の育児参加についてのデータがほとんどなかったのです。また、母親学級、両親学級のようなものはあっても父親向けの連続講座というものにはほぼありません。それに、父親の育児参加というと、子どもと遊ぶということが多いので、育児技術を身につけていただくということで「父親の育児を応援する会」を立ち上げ、講習会を開催しました。

—講習会ではどのようなことを

講習会自体は、全6回で構成しました。月に一回を半年間です。内容は子供の世話や、しつけ、そして食事、子どもが病気をしたときの対応などです。このうち3回分を「学生地域アクションプラン」で補助していただきました。食事の献立は大人が食べる材料で子どもも食べられるものを作る、ということで、食材選びからはじめて、お父さんたちに作ってもらって、お母さんと子どもに食べてもらうというものでした。子どもの嫌いなものもちゃんと食べさせてもらいました。献立は、「父親の育児を応援する会」のメンバーに栄養士の方がいたので、その方にお任せしました。また、みんなでハイキングに出かけたりもしました。これはまず、母親は子どもが2歳くらいまでだと外に出ることがほとんどできないんですね。それがストレスになっているので、それを解消しようというのがひとつ。では、父親はどうかということ、普段会社勤めをされてるとなかなか、



父親同士の友人づくり、交流といったことがないんですね。そこで、顔見せの場としても使っていたらな、と企画したのです。

—ずいぶんと幅広く活動されているようですが、「父親の育児を応援する会」はどのようなメンバーなのですか



私を含めて5人がメンバーです。全員が看護師、助産師、保健師、栄養士等の保健医療の資格保持者です。私は主にコーディネートをしていたのですが、他の方にそれぞれ講師になっていただきました。しつけの授業については心理士さんをお呼びしましたが、育児講習会に集まってくれたお父さんは10人です。計画では20～30人位を考えていたのですが、コミュニケーションは密になってよかったのかな、と思います。サラリーマンの方が多く年齢も30代前半から半ばの方でした。子育てなどいちばん悩む時期なので、熱心に講座に参加されてました。

—苦勞したことは

北須磨団地というところで行ったのですが、自治会がよく組織されていて、とても協力していただきました。場所の確保や、物品の貸し出し、広報については自治会長さんから保育センターを紹介され、そちらでチラシを配ってもらったりもしました。ただ、未就学児のなかでも5、6歳くらいの子どもの持つ両親からの反応は少なかったですね。子どもの手がだいぶ離れているのが原因だと思います。難しかったのは、育児を押しつけない、ということでした。性別による役割分担などを意識されないようにすることには気を遣いましたね。

—今後はどうされますか

北須磨団地の自治会長さんには、今後もぜひ、と言ってもらえていますので、保育センターとも話し合っって今年の経験を生かし、来年度も実施したいと考えています。最初と最後にアンケートを行ったのですが、子どもに対する感情などで意識の向上が見られました。出席率もだいたい7、8割は来られていました。楽しいことを加えつつ、お父さんたちに育児を学んでいただけたらと思っています。

—ありがとうございました。

(インタビュー：佐々木和子地域連携研究員)

加西・鶉野飛行場関係歴史遺産活用シンポジウム

2010年12月5日(日)、加西市健康福祉会館で、「加西・鶉野飛行場跡 ―戦争遺産をまちづくりにどう活かすか―」(主催:加西市・加西市教育委員会、後援:神戸大学)が開かれました。2008年度から、加西市と神戸大学人文学研究科地域連携センターは、加西・鶉野飛行場関係歴史遺産調査研究を共同して行っています。その成果を地元の方々に披露し、これらの戦争遺産をどのように今後活用していくかを考えるために開かれたものです。シンポジウムには、約150人の市民が参加しました。

シンポジウムでは、報告とパネルディスカッションが行われました。基調報告は、関西学院大学高岡裕之教授による「鶉野飛行場の歴史的意義・価値」。また長年飛行場跡の保全活動に取り組んできた上谷昭夫氏(鶉野平和祈念の碑苑保存会)が、写真スライドを用いて、現存する鶉野の戦争遺跡の紹介をし、本学地域連携推進室佐々木和子研究員が、各地の戦争遺跡の活用事例について、人文学研究科坂江涉特命准教授が、鶉野周辺を含む加西の歴史遺産について報告しました。

報告のあと、本学地域連携推進室の奥村弘室長がコーディネーターとなって、パネルディスカッションが行われました。パネリストには、上記の報告者のほか、滑走路の側にある神戸大学農学研究科附属食資源教育研究センターの伊藤一幸センター長や加西市の中川暢三市長も加わり、会場の市民もまじえて飛行場跡の保全・活用をめぐる活発な議論が行われました。なお、この日のシンポジウムの報告も掲載された鶉野飛行場跡の共同調査研究報告書は、2011年3月末に刊行されます。希望者は、加西市教育委員会自己実現サポート課(0790-42-8775)までお申し出ください。



人文学研究科、兵庫県教育委員会との覚書に調印

人文学研究科は、2011年1月28日、兵庫県教育委員会室(兵庫県庁内)で、「地域歴史文化を担う人材育成の方策に関する調査・研究に関する覚書」の調印式が行われ、本学人文学研究科の釜谷武志研究科長と兵庫県教育委員会の溝口繁美教育次長が相互に協定書を取り交わしました。この覚書は、前年8月2日に、神戸大学と兵庫県との間で結ばれた「包括連携に関する協定書」にもとづくものです。

締結の目的は、人文学研究科と兵庫県教育委員会社会教育課文化財室、兵庫県立歴史博物館、兵庫県立考古博物館の4者が分担して、地域歴史文化を担う人材の育成に関する共同事業の実践的な調査・研究を行うことにあります。具体的事業として、「地域の歴史を社会全体で守り、古文書等を理解し、活用を図る人材を育成するために、市民を対象とする『まちづくり地域歴史遺産活用講座(仮称)』を開設し、展開方策を調査・研究することなどが定められました。



協定書への署名を終え、握手を交わす釜谷研究科長(左)と溝口教育次長(2011年1月28日、兵庫県庁にて)

農学研究科地域連携センターから

第5回地域連携フォーラムが、2011年1月22日、篠山フィールドステーションで開催されました。今回のフォーラムは、食農コープ教育プログラム(教育GP)の締めくくりの報告会を兼ねるものでした。そのため、地域連携研究員の報告に加え、教育プログラムに参加した学生からの報告も行われました。また、地元からは、実習を受入れた地区から代表者が集まり、意見交換の場となりました。地元からは、学生を受け入れたことによって、学生の目を通して、新たに自分たちの地域を再発見し、自信をもつようになったこと、若い人の労働力、学生を通じて非農家との連携が取れるようになったことなどが、良かった点としてあげられました。また、今回のような学生の報告は、地元の人たちの前でぜひやって欲しいとの意見が出ました。教育GP終了後は、ESD教育の一環として、規模を縮小して続けられることが報告されました。



活動状況

2010年

- 8月 4日 神戸市各区まちづくり担当者との意見交換会(地域連携推進室)
- 19日 兵庫県農業協同組合中央会と連携協力協定を締結(農学研究科)
- 26日 地域・だいがく連携通信 第7号を発行(地域連携推進室)
- 30日 神戸大学と兵庫県篠山市との連携協力協定を締結
- 10月 19日 静岡大学情報学部から来訪、神戸学院大学企画部訪問(地域連携推進室)
- 23日 小野市立好古館が秋季特別展「下東条地区地域展」展を開催(～12月5日)
- 28日 甲南大学コミュニティ・デザイン・センター、甲南女子大学対外協力センター内社会貢献室訪問(地域連携推進室)
- 11月 1日 国立療養所邑久光明園と連携協定を締結(人間発達環境学研究所)
- 3日 北野村古文書さとがえり展を開催(人文学研究科地域連携センター、～6日、神戸北野天満神社境内北野プラムテラス)
- 4日 広島大学産学・地域連携センター訪問(地域連携推進室)
- 5日 農学研究科食資源教育研究センター(加西市)で収穫祭
- 20日 甲南大学地域連携フォーラムに参加(地域連携推進室)
- 12月 5日 加西市・加西市教育委員会が「加西鷓野飛行場跡」活用シンポジウム開催
- 12日 丹波地域大学・地域連携4大学合同シンポジウムに参加(地域連携推進室)
- 17日 平成22年度地域連携活動発表会開催(地域連携推進室)
- 18日 市民向け「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の試行プログラム実施(人文学研究科地域連携センター、～19日、姫路市香寺町)
- 22日 地域型大学サテライト拠点情報交換会2010 in 和歌山大学・南紀熊野に参加

2011年

- 1月 22日 第5回 地域連携フォーラム開催(農学研究科地域連携センター)
- 第6回 地域連携センター報告会開催(保健学研究科地域連携センター)
- 28日 兵庫県教育委員会と「地域歴史文化を担う人材育成の方策に関する調査・研究に関する覚書」を締結(人文学研究科)
- 30日 第9回 歴史文化をめぐる地域連携協議会開催(人文学研究科地域連携センター)
- 3月 4日 広島大学地域連携シンポジウム参加(地域連携推進室)

編集後記

今年は、例年になく寒い冬でした。しかし、寒ければ寒いほど、続いてやってくる季節が待たれます。大学に続く坂道に、梅の花が見られます。桜満開の春ももうすぐです。地域連携活動も、新たな一歩を踏み出したいと思います。